

[リレー連載]



愛知教育大学 地域の拠点として 専門職業人を養成

高橋美由紀 Takahashi Miyuki
(愛知教育大学大学院教授)

小学校英語研修会の経緯

愛知県は地理的に日本の中心に位置しています。愛知教育大学はこの地で、広域の拠点的作用を果たし、子どもたちの未来を拓く豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。

2007年度から学長裁量経費のプロジェクトとして開催した小学校英語研修会は「愛知教育大学の小学校外国語教育教員研修会」として日本全国に広まり、北海道帯広市から福岡県福岡市までの教育委員会や小学校教員が集い、2日間の参加延べ人数が約900名となりました。この研修会については、『英語教育』（本誌）や『読売新聞』、『The Daily Yomiuri』、『中日新聞』、『日本教育新聞』、『文教速報』等に掲載され、社会貢献活動としても高い評価を得られました。

文部科学省特別経費プロジェクト研究として

2010年度から2013年度の4年間は、文部科学省特別経費プロジェクト—高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実—「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」の事業として実施されました。

この時に、「小中英語支援室」が創設され、教員養成大学として、大学と学校現場の連携を通して、小学校外国語活動から中学校、さらに高等学校での英語教育への連続性を視野に入れた教育実践及び授業モデルの構築、併せて実践力のある教

員養成と現役教員のリカレント教育の充実を図ってきました。そして、愛知教育大学附属小学校・中学校や、愛知県内の小学校・中学校の先生方から研究協力、学生派遣受け入れ、デジタルアーカイブへの授業記録の保存等多大なご協力をいただけてきました。

具体的には、3年生で教育実習を終えた英語専攻・選修の学生を学校現場に派遣し、外国語活動の授業で補助としての役割を担いました。学生たちは多くの経験を積み教育実践を深めることで、教師になるための資質向上につなげることができました。また、英語専攻・選修、国際文化コースの学生で英語教諭を目指している学生を対象に、オーストラリアの小・中・高等学校で3週間の教育実習を行いました。学生たちは各自ホームステイをしながら、学校で授業補佐等の実習を通して英語に触れ、自身の英語力を高めることができ、さらに、海外の教育や異文化に触れることで、教育者としての視野が広がりました。また、現地の児童生徒に日本文化を紹介することでプレゼンテーションスキルを向上させる等、様々な経験をしながらコミュニケーション能力の育成や困難への対処能力等グローバル人材の育成を目指した取り組みができました。

これを踏まえて、2014年度から2018年度にも文部科学省特別経費プロジェクトとして「グローバル人材育成を主軸とした教員養成等プログラムの開発—海外教育実習、体験型教育及び、英語コミュニケーション能力と指導力養成カリキュラムの構築—」事業を行いました。

2020年度英語教育本格実施に向けて

さらに、「小中英語教育教員研修会」として2016年度からは、企画の段階から愛知県内の小学校の校長先生方に加わっていただき、2020年度の本格実施に向けて、現場のニーズが高い講演・ワークショップ等を行っています。昨年度までは文部科学省配布の移行期の教材を使用して実際の45分の授業と15分の解説・質疑応答、先生方の専門を活かした英語の授業を行うための機会としてCLILを活用した附属小学校での体育の事例等の紹介を行いました。2019年度は12月21日（土）に、2020年度から使用される小学校外国語科の検定教科書、及び *Let's Try!* を使用した授業指導と評価をテーマに開催する予定です。

小学校英語の教員免許に関するものとして、免許状更新講習「小学校外国語活動と小中連携の英語教育の指導法と理論1」（8月）、及び、「小学校外国語活動と小中連携の英語教育の指導法と理論2」（12月）を実施しています。「中学校教諭二種免許状（外国語（英語））取得のための免許法認定講習」は、2019年度「公開講座」として8月と12月に実施予定です。また、東京学芸大学・愛知教育大学・千歳科学技術大学の3大学共同プロジェクトの取り組みとして、e-learning 教員免許状更新講習「小学校外国語活動と小中連携の英語教育の指導法と理論」も実施しています。

地域の小学校実践紹介：

愛知県豊川市立一宮西部小学校

筆者が指導助言をしている一宮西部小学校（柴田斉子校長）は、2017年度から市の「小学校英語」の研究指定を受けて、「誰とでも主体的にコミュニケーションをとろうとする子の育成」というテーマのもと、全教員で熱心な取り組みがなされています。1・2年生は年間10時間程度「英語であそぼ!」という時間を設けています。TPRを重視した指導法で、英語絵本の読み聞かせを担当が行ったり、「英語の歌に慣れ親しみ、英語の音・リズムに慣れることを主にしています。中学年は *Let's Try!* を使って年間35時間の英語活動、高学年は *We Can!* を使って年間70時間の教科としての英語を行っています。授業の半分は担任の

み、もう半分は担任がT1、ALTがT2のチームティーチングで行われています。

そして、学校長主導の下で、音声活動を踏まえた文字活動、評価の試みとして従来の「振り返りカード」のみならず、パフォーマンス評価、「My English Passport」（愛知県教育委員会作成）をより具体的に示した「Can-Doリスト」作成といった先駆的な実践研究が進められています。

今年6月に参観した6年生の英語科（鈴木雅紀子教諭）の授業では *We Can! 2* 「Unit 4 I like my town」の表現を使って、自分たちの住む町や地域にある施設、欲しい施設について、「自分の考えや気持ち、理由等について友達に伝え合うことができる」活動を行っていました。「We don't have a big park. I like baseball. I want a big park.」などのように、主体的に英語で伝えている子どもたちの姿が印象的でした。この活動は、スカイプを使ってリアルタイムで「自分たちの住む地域のよさを外国の人に伝える」活動につながることを子どもたちは知っています。これまでも、アメリカに住んでいるALTの妹さんや、オーストラリアのサマビル小学校の子どもたちと交流することで、児童が「世界の子どもたちと英語でコミュニケーションをする喜び」を味わうことができました。なお、サマビル小学校では日本語を学習しているため、お互いに学習している言語を使って話すことができます。4月15日にサマビル小学校の校長先生が家族旅行の途中に一宮西部小学校を訪問しました。校長先生のお子さん（小学生）と話ができた児童たちは大興奮でした。そして、学習した英語を使うだけでなく「もっと話せるようになりたい」という気持ちを強くしました。一方、職員室では、夕方の会議を日直の先生が英語で司会したり、Small talkの練習を兼ねて最近の出来事を英語で話したりしています。常に「必然性のあるコミュニケーションの場面設定や、目的、状況」を大切に授業を構築するために、教材研究や準備、授業づくり等を地道に行なわれている先生方の姿に感動しています。

2019年10月31日（木）に3年間のまとめとして研究発表会を開催予定です。

◎調査で訪れた国の教育現場での学び
や子ども達との交流を楽しんでいます。
す。（高橋）